

令和六年度

前期日程

国語問題 (H・F・J・E)

〔注意〕

- 一、問題冊子及び解答用冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
- 二、受験番号は、解答用紙の受験番号欄(計六か所)に正確に記入すること。
- 三、問題冊子のページ数は、表紙を除き合計十五ページである。脱落している場合は直ちに申し出ること。
- 四、解答用冊子には解答用紙二枚と白紙一枚が一緒に折り込まれている。解答用紙をミシン目に従って切り離すこと。
- 五、解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。
- 六、問題冊子の下書き欄及び余白は、適宜下書きに使用してよい。
- 七、解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 八、問題冊子及び白紙は持ち帰ること。

問題訂正

・問題冊子

5ページ 9～10行目

(誤)・・・無限の可能性に向かう「のだ」と・・・

(正)・・・無限の可能性に向かう「のだ」と・・・

I

次の文章を読んで、後の問い(問一～問四)に答えなさい。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

問一 傍線部(1)について、本文全体での「華語」、「北京語」の説明として正しいものを次の選択肢からすべて選び、記号で答えなさい。

- (ア) 老舎が書く文章は、北京語とは異なる体臭を身につけている。
- (イ) マレーシア華人の華語とは、家庭で用いられる南方方言のことである。
- (ウ) 広東語の話者が見よう見まねの北京語の白話文で書くことと、マレーシア華人が華語で書くこととの間には類似した困難が見られる。

(エ) 朱自清らの作家は、李金髮の詩が難解なのは彼が北京語を母語としないからだと考えていた。

(オ) 広東語や華語で書かれた文章も、北京語で書かれた文章と同様に白話文と呼べると筆者は考えている。

(カ) (ア)～(オ)の選択肢の中にあてはまるものはない。

問二 傍線部(2)について、「白話文の優位性が発揮される場面」の例として適切なものを次の選択肢からすべて選び、記号で答えなさい。

(ア) 清末の中国における知識人が西洋の学術を学ぶうえで、日本語の書物を經由して知識を吸収したこと。

(イ) 魯迅が『狂人日記』を執筆し、封建的な家族制度を批判したこと。

(ウ) 中国の詩人が、日本人によって詠まれた漢詩を翻案して詩作をすること。

(エ) 清末の思想家が民間歌謡のスタイルを発展させて、政治の腐敗を批判すること。

(オ) 民国以降の庶民が文字によって自らの思想を表現すること。

(カ) (ア)～(オ)の選択肢の中にあてはまるものはない。

問三 傍線部(3)について、「マレーシアの中国南方方言話者は、漢字と華語をマスターすることによって、新たに華人となる」とはどのようなことを意味しているか、本文の内容に即して一三〇字以内で説明しなさい。

問四 傍線部(4)について、「華語も『実践のなかで伸張し、その存在を引き延ばされ、無限の可能性に向かう』とは黄錦樹のどのような考えをあらわしているのか、本文全体の趣旨を踏まえて二〇〇字以上、二五〇字以内で説明しなさい。

II

次の文章を読んで、後の問い(問一～問五)に答えなさい。

著作権処理中のため、
公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

問一 傍線部(a)と(d)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部(1)について、どうして「緊張をはらむ」と考えられるのか、本文の内容に即して八〇字以内で説明しなさい。

問三 傍線部(2)について、アリ塚にたとえることで、ナチスの全体主義国家の性質はどのようなものとして理解できるのか、本文の「誕生」をめぐる議論を踏まえて二〇〇字以内で説明しなさい。

問四 傍線部(3)について、「新しい政治」においては個人と社会はどのようなものであるべきだと考えられているか、本文の内容に即して一四〇字以内で説明しなさい。

問五 傍線部(4)について、どうして「気軽に口にすべきではない」のか、本文の内容に即して一〇〇字以内で説明しなさい。

Ⅲ

次の文章を読んで、後の問い(問一、問四)に答えなさい。

著作権処理中のため、公開できません。

著作権処理中のため、公開できません。

問一 傍線部(1)(2)を、主語を明示して現代語訳しなさい。

問二 傍線部(a)の内容を具体的に説明しなさい。

問三 傍線部(b)の和歌を現代語訳しなさい。その際、現人神が誰に当たるかを明示すること。

問四 傍線部(c)は「力をも入れずして天地あめとこを動かし、目に見えぬ鬼神おにとあまをもあはれと思はせ、男女のなかをも和らげ、たけきもののふの心をもなぐさむるは歌なり」という古今和歌集仮名序の文章を引いた語り手の批評である。語り手はこの小大進の話をごどのように考えているのか、本文全体を踏まえながら説明しなさい。